

雑草が

はえてるところに
ササっとまくだけ!

バイスコープ1キロ粒剤は、
部分散布
が可能です!



経済的!

浅く水をはればいだけ?!

楽チンだね!

粒剤でも部分処理できるんだ!

ムダが無くていいね!

部分散布とは……

雑草が発生している圃場の一部分のみに散布する省力化技術です。バイスコープ1キロ粒剤は、ごく浅く湛水して散布することで部分散布が可能です。

上記の写真はイメージです。実際には散布面積に応じて規定量を均一に散布してください。

部分散布の上手な使い方



水稲用 **中・後期** 除草剤
バイスコープ 1キロ粒剤

Point 01 **ごく浅い湛水状態で散布する**

粒が崩壊する程度の水深(1cm程度)

雑草

通常の湛水状態だと有効成分が薄まってしまい、十分に効果が発揮されません。

Point 02 **雑草発生部とその周縁まで**

確実に効果を発揮させるために、雑草の発生部だけでなく周縁部にも散布してください。

雑草発生部

1m以上

薬剤散布部

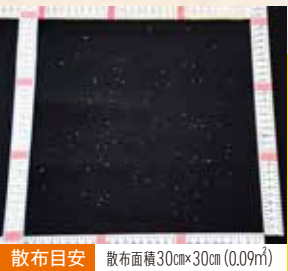
Point 03 **規定量(1g/m²)を均一に散布する**

過量散布は薬害のおそれがありますので、必ず規定の散布量を守ってください。

均一に散布するために!

- 散布予定部分を測量し、必要薬量を計量してから散布ください。
- 散粒器や動噴を使う場合は、通常よりも開度を絞って調整しながら散布してください。
- 均一に散布可能なドローン等による散布もおすすです。(各種ドローンの設定は裏面参照)

1g/m²の均一散布例



Point 04 **散布後3日間 降雨・入水は×**

散布後3日以内に降雨(水深が上がる程の多量の降雨)があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用してください。また、散布後3日以内の再入水はしないでください。

散布後の3日間は水を入れない!

降雨

入水

一度入水する(ごく浅い程度で良い)

Point 05 **散布後4~7日は 田面露出に注意**

散布後の自然減水により田面が露出する期間が長引くと効果にフレが出るおそれがあるため、散布後7日以内に静かに再入水してください。

土壌水分が少ないと効果が十分に発揮されないことがあります!

一度入水する(ごく浅い程度で良い)

Point 06 **散布箇所が 重ならないように**

同一水田内で複数箇所散布を行う場合は、散布箇所が重ならないようにしてください。

隣接箇所はまとめて1箇所として散布

Point 07 **複数箇所は 同日中に散布する**

本剤の使用回数については、散布部分に関わらず水田全体で1回と見なすため、同一水田内で複数箇所散布を行う場合は同日中に散布してください。

同日中の散布であれば圃場全体で1回とカウント

水稲用 中・後期 除草剤

パイスコープ® 1キロ粒剤

除草剤分類 33,27

- 農林水産省登録 第24284号
 - 有効成分：サイラ（シクロピリモレート）…2.0%
テフリルトリオン……………3.0%
 - 人畜毒性：普通物※
- ※「毒物および劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、
特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。
- CYRA、サイラ、パイスコープは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標
CYRA、サイラはシクロピリモレートのブランド名です。



適用雑草と使用方法

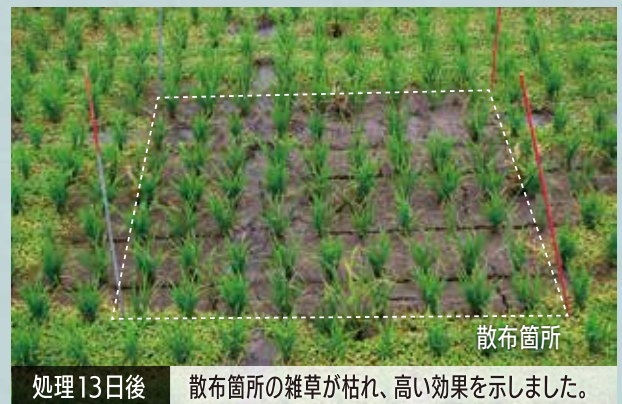
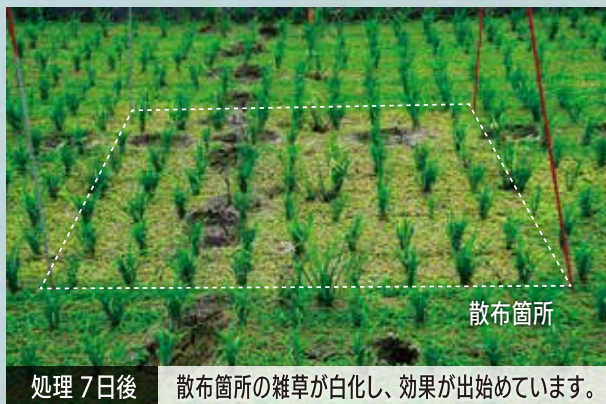
2024年12月11日現在

作物名	適用雑草名	使用時期	10アル 当り 使用量	総使用回数*	使用方法
移植水稲	一年生雑草（ノビエを除く） オモダカ、ホタルイ クログワイ、ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ、シズイ	移植後14～60日 ただし、収穫45日前まで	1kg	本 剤 1回 シクロピ リモレート剤 2回	湛水散布、 ごく浅く湛水して散布 又は 無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草（ノビエを除く） ホタルイ、ウリカワ ミズガヤツリ	稲3葉期～出芽後60日 ただし、収穫45日前まで		テフリル トリオン剤 2回	

*印は収穫物の残留回避のため、本剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

部分散布の効果試験（社内試験）

試験場所：三井化学クロップ&ライフソリューション(株)農業化学研究所（滋賀県）
圃場面積：49m² 移植日：2020/4/24 薬剤処理：5/19
処理時の雑草葉齢：ホタルイ草丈12cm、オモダカ矢じり葉4葉期、一年生広葉雑草2対期
処理方法：試験区中央の4m²（2m×2m）にのみ1g/m²で均一散布
処理時の水深：1cm以下のごく浅水



- ・ドリフト防止の観点から、1キロ粒剤の散布ルートは畦畔から5m以上内側で設定してください。
- ・目安表はあくまで地上での吐出試験結果に基づいた目安です。
- ・実際の飛行散布では加速時の速度変化や、気象・環境要因、機械の個体差によって吐出量は変動します。

- 【使用上の注意事項】
- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
 - 一年生雑草のうちノビエには効果が劣るため、ノビエに有効な移植または種前後の除草剤との体系で使用してください。
 - 生育期に入った雑草に効果がありますが、特に多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意してください。オモダカは矢じり葉5葉期まで、ホタルイ、クログワイは草丈15cmまで、ウリカワ（移植水稲）は7葉期まで、ミズガヤツリ（直播水稲）は5葉期まで、ミズガヤツリ（移植水稲）は草丈30cmまで、ミズガヤツリ（直播水稲）、シズイは草丈20cmまで、ヘラオモダカはヘラ葉2葉期まで、また、一年生雑草のイボクサ（移植水稲）、クサネム（移植水稲）は草丈20cmまで、アゼガヤ（移植水稲）は草丈10cmまで、ミズアオイ（移植水稲）は心形葉1葉期までが本剤の散布適期です。
 - 散布に当たっては、水の出入りを止めてごく浅い湛水または通常の湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後7日間落水、かけ流しはしないでください。また、止水期間中の入水は静かに行ってください。本剤を浅水で散布した場合、その後の自然落水により田面が露出する期間が長引く効果にフレが出るおそれがあるため、散布後7日以内に再入水してください。
 - 本剤をほ場内の雑草が発生する箇所を対象に部分的に散布する場合は次の注意を守ってください。

- ①ごく浅い湛水状態のまま雑草発生部およびその周囲部1m程度を含めた部分に、散布する面積に応じた使用量（1m²あたり1g）を均一に散布してください。
 - ②散布後3日以内に降雨があると効果が十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用してください。また、散布後3日以内の再入水はしないでください。
 - ③同一水田内で複数箇所散布を行う場合は、散布箇所が重ならないようにしてください。
 - ④本剤の使用回数については、散布部分に関わらず水田全体で1回と見なすため、同一水田内で複数箇所散布を行う場合は同日中に散布してください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
 - ①散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
 - ②散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整してください。
 - ④散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意してください。
 - ⑤水源地、飲料水等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意してください。
 - 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布してください。
 - 稲の根が露出する条件では被害を生じるおそれがあるので、使用をさけてください。

- 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び補付作業はていねいに行ってください。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行ってください。
- 補植は必ず散布前に行ってください。
- 下記のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
- ①砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
- ②軟弱な苗を移植した水田
- ③極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合がありますが、その後の生育に対する影響は認められていません。
- 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意してください。
- 空袋等はほ場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないでください。
- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行ってください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用してください。特に初めて使用する場合には病害虫防除等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

○使用前にはラベルをよく読んでください。 ○ラベルの記載以外には使用しないでください。 ○本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ○容器・空袋などは圃場などに放置せず、適切に処理してください。 ○防除日誌を記載しましょう。
*本製品は農業用除草剤であり、製品ラベルの記載内容以外には使用しないでください。 *本印刷物は2024年12月11日現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。